

平成二十九年十二月第五回人吉市議会定例会の開会に当たり、発言の機会をいただきましたことに心から厚くお礼申し上げます。

去る十月二十二日に第四十八回衆議院議員総選挙が執行され、総数四百六十五人の衆議院議員が公選されました。困難極める国際情勢をはじめ国政を取り巻く状況は厳しいものがございます。明治維新の立役者、坂本龍馬が詠んだ一句「君がため捨つる命は惜しまねど心にかかる国の行く末」のごとく、私自身も新たな日本丸の舵取りに大きく期待を寄せるとともに、我が国の行く末をしっかりと見つめていきたいと存じます。

さて、平成三十年は明治維新から百五十年という節目の年を迎えますが、新しい国の形をつくりあげた維新最大の功労者でもある西郷隆盛の一生をドラマ化した「西郷どん」がNHK大河ドラマで放映されることになっております。二百年以上続いた鎖国の状態から新興国として国際舞台に翔び出した若き日本に思いをはせるとき、現在にも増して多くの困難が山積する中で、発展を遂げてきた往時の苦労はいかがばかりであったかと想像を絶するところがございます。

社会的にも現在に引き直せば大きなパラダイムの変化で、ものの見方、捉え方、枠組みの変革が求められる状況は、人類史上初の超少子高齢社会を迎える現在とも重なる部分があり、人口減少時代の中で、人口の確保に努めながらも、都市の体幹ともいえる土地利用などまちの在り方、「かたち」などを再構築する必要性を実感しております。各校区における市政懇談会においても、高齢化の進展に伴う各種インフラの整備、本市の土地利用、施設配置等について要望や意見が様々に出されており、今後、新市庁舎を中心にしたまちづくり、麓町本庁舎周辺を含む跡地利用、公共施設の総合管理等を具体的に進める必要がありますが、コンパクトシティの進化、防災、景観形成、新たな交通体系の確立、健康・医療・福祉のまちづくりの観点から、安全・安心、暮らしやすさ、そして持続可能で魅力あふれる人吉づくりを西郷南洲翁たちがつくりあげようとした新しい国家像に思いをはせながら、私自身も取り組んでまいりたいと存じます。

平成二十八年度の人口動態調査の結果が発表され、我が国の出生数が初めて百万人を割ったことが公表されました。明治三十二年、西暦では一八九九年の統計開始以来最低の数字ということ、人口減少社会を改めて実感するニュースでございました。今回の衆議院議員総選挙においても、子育て世代の負担軽減策は政党間の争点の一つであり、将来にわたって持続可能な社会の構築のためには、その重要性、緊急性が大きくクローズアップされてきたところでございます。本市としましても、本年十月から中学校卒業までの医療費を完全無料化に移行するなど、市議会の御理解をいただきながら子育て世代への支援を進めているところであり、今後も、国の動静等に留意しながら更なる拡充に努めてまいりたいと存じます。

また、人口が減少する一方で、人口知能やロボットといった先端技術が、我々の生活や各種産業といった様々な分野に大きな変革をもたらしており、マンパワーを補完するどころか、近い将来には人に取って代わるような勢いさえ感じる昨今の状況でございます。当然、このような社会の変遷が、地球規模での環境保全や人類の幸福向上につながるようコ

ントロールしていくことが今を生きる我々の使命でございますが、更なる超スマート社会の到来に備えて、本市においても「不易流行」の言葉どおり時流を的確に捉えながらも、揺るぎない価値観の醸成や都市のアイデンティティー、目指すべき発展方向を確定し、未来へつないでいくことがこれまで以上に求められるものと認識しております。そして、そのためにはそれを担う人づくりが最も重要であり、全ての根幹であるというのが私の信念でもあり、広い意味での教育をはじめ人に焦点を当てるような施策に取り組んでまいりたいと存じます。

特に、テクノロジーが飛躍的な進化を遂げ、急激に進展する情報化、グローバル化など将来の変化を予測することが困難な時代にあつて、人づくりの基本である教育に求められる役割はますます広く、深く、難しくなるものと認識をしております、家庭、学校はもちろん、地域を含め社会全体のテーマとして取り組んでいくべきものだと考えております。

国で進められてきた「次世代の学校を創生し、教育を強靱化する。」といった方針もこういった社会背景に基づくものであると理解をしておりますが、一方では、教育によつて、人工知能、いわゆるAIの進化といった光の部分についても、未来を切り開く力にしてもらいたいと強く願うところでございます。

去る十月十六日には新教育制度下における基幹事業ともいえる総合教育会議を開催し、教育委員の皆さんと本市教育について現状の把握、意見交換、今後取り組む課題等の共有を行ったところでございます。特に、本市議会でも御指摘をいたしております小学校部活動の社会体育移行については、多くの時間を割いて、意見交換を行いました。具体的には、実施場所や傷害保険、小学校の部活動からのスムーズな移行に伴う諸課題、スケジュール等に意見が及び、指導者等の確保の面から種目別の設定は難しいという状況も理解をしたところでございます。今後、本市としましては、子供たちをどう育てたいのか、そのためにはどのような環境が必要なのか、その根幹の部分を入吉市教育振興基本計画に沿ったビジョンに照らしながら、個々の施策等について、より良い方向を合議してまいりたいと存じます。

本年の秋は、特に印象深い秋となりました。節目の事業として挙行了した麓町本庁舎の閉庁式をはじめ歴史を重ねている犬童球溪顕彰音楽祭の碑前祭、再編整備後の球磨中央及び南稜高校の開校記念式典、新たな歴史を築いた入吉市女性消防隊の全国女性消防操法大会優勝など、様々な式典や大会に参加をし、この地域における歴史の意味、言い換えれば歴史観といったものを、世代を超えて共有することの重要性を実感いたしました。一方、現在、市議会を含め御検討いただいている新市庁舎における「入吉らしさ」といったものを追求する中で、本市の大切なもの、後世に伝えるべきもの、市民がふるさとへの思いを共有し、心を一つにできるものを再発見する良い機会にもなっており、麓町本庁舎の閉庁式とも相まって、市庁舎をめぐりふるさと入吉を再認識する機運が高まりつつあります。

現在、傾注している移住定住の促進についても、やはりそこに住む人の幸福感といったものが最大ベースであり、論語にある「近者悦遠者来（近き者悦べば、遠き者来る）」という、私が志す政治の一つの理想形にも通じるものがあると確信しております。年末に近づ

き本市のふるさと納税の件数も伸びており、誠に有難く存じますが、同時に応援いただく皆様の御期待に沿えますよう、「住み続けたい」、「住んでみたい」、「今は離れているけれどいつかは帰りたい」と思われるような人吉、「故郷忘じがたく」と語り継がれるようなふるさと人吉を創ることで恩返ししてまいりたいと存じます。

また、本市出身のウッチャンこと内村光良氏が、大みそ日の国民的番組である第六十八回NHK紅白歌合戦の総合司会に抜てきされるという、うれしいニュースが本市に飛び込んできました。改めてお祝いを申し上げますとともに、市民各界各層、特に、本市の子供たちに大きな夢と希望を与えていただきましたことに深くお礼を申し上げますと存じます。それではここで、各部の主軸・主要事業について御報告させていただきます。

まず、総務部・企画政策部関係でございますが、去る十月二十九日に挙行いたしました麓町本庁舎閉庁式につきましては、これまで麓町本庁舎において、市政に御尽力をいただきました歴代の市長とその御家族、金子恭之衆議院議員、歴代の市議会議員や市職員をはじめ多数の市民の皆様と共に、麓町本庁舎に対する感謝とお別れを伝える機会を得ましたことを大変光栄に存じ、深く感謝を申し上げます。

式典におきましては、第一中学校吹奏楽部による演奏に始まり、人吉東小学校及び第一中学校の児童・生徒代表、さらに、市職員OB代表の黒肥地改太郎様からの御挨拶を賜り、その後、歴代市長など関係の方々による献花を行っていただきました。最後には、五十五年間への慰労と感謝など万感の思いを込めて、御臨席の皆様全員で、市旗降納を見届けていただいたところでございます。

一つの時代の終えんに立ち会った参列者からは、「格別の寂りようと新たな時代の幕開けを感じた。」という御意見を多くいただき、安堵の想いと共に新たな責任の重さを痛感いたしました。麓町本庁舎は、来春をめどに解体に着手することとなり、直接その雄姿を目にすることはかなわなくなりますが、この閉庁式を節目に、いつまでも市民の皆様の記憶の中に生き続けることを切に願うものでございます。

市庁舎移転建設関係でございますが、この度、市庁舎建設事業の取り掛かりとなる、旧保健センター及び旧勤労青少年ホームの解体工事に着手いたしました。事業計画では、この後も西間別館倉庫の解体、小永野第一雨水幹線の付け替えを経て、市庁舎建設本体及び外構工事等を順次行う計画でございます。現在の計画どおり平成三十三年春の供用開始を目指し、着実に事業を推進してまいりたいと存じます。

工事期間中は、工事用車両の通行ルートの指定や速度制限を行い、交通誘導員を適切に配置し、安全対策を徹底するとともに、防音シートや仮囲いを設置するなど、騒音、振動の軽減にも努めてまいります。特に、周辺にお住まいの皆様には、市庁舎が完成するまでの期間、長期にわたり御迷惑と御不便をおかけすることになりますが、何とぞ御理解と御協力をお願い申し上げます。

人権啓発関係でございますが、「差別と戦争に反対し、格差と貧困の打破と社会連帯を目指して部落解放運動の新たな飛躍をかちとろう」をテーマに、部落解放第三十回熊本県研究集会が人吉スポーツパレスなどを会場に十一月十八日、十九日の両日、開催されたこと

ろです。全体集会には、県内の行政、教育関係者など約三千人が参加され、「差別のない明るい社会」を構築していくため、同和問題に対する正しい認識を深めていただいたところでございます。大会運営に御尽力いただきました関係の皆様、御参加いただきました県民の皆様に対し、心より感謝申し上げます。

広報・広聴関係でございますが、広報ひとよしの発行回数につきましては、近年の県内各市の状況を調査・検証し、月一回発行への見直しを検討したところでございます。

本市につきましても、経費削減の観点、ホームページ、データポンなどインターネットやテレビを活用した情報発信をはじめとする広報手段の多様化など、総合的に判断いたしまして、平成三十年から月一回の発行とさせていただきますと考えております。発行回数は減少いたしますが、これまでと同様に、質、量共に低下させることなく市民の皆様に必要な行政情報をしっかりお届けしてまいりますので、御理解、御協力のほどをお願い申し上げます。

移住定住関係でございますが、本年度は地方創生推進交付金を活用し、本市の移住定住施策の柱となるビジョンの策定に向けて事業を進めているところでございます。「市外の人に住みたいと思う人吉」、「今住んでいる人がこれからも住み続けたいと思う人吉」とはどのようなまちなのか、市民の皆様と共に対話を通してその答えを検証、検討をしていく場として、ひとよし未来会議を行います。未来会議では、テーマ別の分科会を年内から年明けにかけて開催し、平成三十年三月には、総まとめの場として市民の方々だけでなく、他の地域から参加された方々も交え、百五十から二百人規模の大未来会議を行うべく計画しております。その中での意見をもとに、移住定住ビジョンをまとめ上げ、平成三十年度に具体的な施策を展開してまいります。

是非、多くの市民の皆様にご参加いただき、将来の人吉のまちづくりに向けた御意見を賜りたいと存じております。

消防関係でございますが、去る九月三十日、秋田市で開催されました第二十三回全国女性消防操法大会に、熊本県代表として人吉市女性消防隊が出席し、市民の皆様の大きな期待を背に、初の日本一へ向け、熱い思いで挑んだところでございます。

結果につきましては、即日、朗報に沸きましたとおり、雨、風、寒さなど厳しいコンディションではありましたが、一糸乱れぬ素晴らしい操法を披露し、見事全国の頂点に輝くことができました。選手たちのたゆまぬ努力に敬意を表しますとともに、御指導いただきました人吉下球磨消防組合の方々のほか、御支援賜りました皆様に心からお礼申し上げます。この優勝を機に、本市女性消防隊をはじめ本市消防団がますます御活躍されますことをお祈りいたします。

防災関係でございますが、これまで地震発生の際に取り沙汰されてきました災害避難所におけるトイレをめぐる問題でございますが、被災者を健康被害から守るべく、マンホールトイレの整備を計画し、年次的に実施していくこととしております。今後、本圏域において、大規模災害を引き起こすおそれのある人吉盆地南縁断層地震に備えるためにも、トイレの確保、水の確保は急務であると認識しており、将来に向けて、災害に強いまちづく

りを目指すため、様々な防災対策に取り組んでまいります。

次に、市民部・健康福祉部関係でございます。国民健康保険事業につきましては、平成三十年四月一日からは、運営主体が熊本県と四十五市町村等の共同で保険事業を運営することとなります。今後、県において、国民健康保険の各市町村の標準保険税率の公表及び国民健康保険事業納付金等が決定され、本市においては、県が示した標準保険税率等を参考にしながら、平成三十年度の国保税を算定する運びになります。なお、窓口における各種手続や保険証の発行、特定検診等の保健事業につきましては、従来どおり継続して行うこととなります。

新たな保険事業制度の実施に伴い、本市においては、現行の国民健康保険税条例のもとで改正を行い、制度の安定化、効率化を図ってまいりますので、被保険者の皆様には、御理解と御協力をお願い申し上げます。

福祉政策関係でございますが、去る十月七日、カルチャーパレスにおきまして、平成二十九年度人吉市戦没者追悼式を挙行し、御遺族や関係する約百五十人の出席者と共に、戦没者の御霊に対し、哀悼の意をささげました。従来、四月の平日に実施しておりましたが、時代の流れと共に、御遺族や先の大戦を経験された方々が少なくなり、戦争を知らない世代が多くなるに連れて、式典への関心の薄れや参加者の減少が懸念されておりましたので、子供たちなど、幅広い世代が参加しやすい土曜日に開催したとさせていただきます。

また、式典の中で戦没者のひ孫に当たる中原小学校の尾崎優太さんに「平和への願い」と題した作文を発表していただきました。戦没者追悼式は、戦没者への哀悼と感謝をささげる式典であるとともに、戦争の恐ろしさ、悲しさ、むなしさを、次世代に伝え、恒久平和を祈念する行事でもあることの理解も広く求め、今後も多くの方々の参加を促してまいりますのでございます。

高齢者福祉関係でございますが、人吉市老人クラブ連合会におかれましては、本年度、優良市町村老人クラブ連合会として、厚生労働大臣表彰を受けられました。

人吉市老人クラブ連合会は、昭和三十九年の結成以来、高齢者を取り巻く時代の変遷の中においても、全国老人クラブ連合会が提唱する「健康・友愛・奉仕」の全国三大運動に連動し、高齢者の方々が健康で自立し、身近な仲間と支え合いながら地域で生き生きと暮らしていく活動を着実に実践してこられました。また、その活動の中には、シルバーヘルパー事業や子ども王国保安官事業など本市の地域性や特色に合った活動へと進化したものもあり、地域づくりにも多大なる貢献をいただいているところでございます。

この度の受賞は、歴代会長や多くの会員の方々から、現在の会長、会員に引き継がれてきた半世紀を越える活動のたまものであり、多くの皆様の手によって受賞できたことに大変意義があるものと存じます。

今回の受賞に対し、心からお祝いを申し上げますとともに、今後も高齢者を取り巻く様々な課題に向き合い、会員の皆様の健康や生きがいづくり、地域での生活支援に資する独自の活動を展開されますことを期待しているところでございます。

健診関係でございますが、全国の市町村には、母子保健や学校保健などの健診情報や国

民健康保険のレセプトなどの医療情報はあるものの、これらの情報をデータ化し、分析する仕組みはございませんでした。

近年のITの進歩は目覚ましく、膨大な情報を蓄積させることが可能となりましたことから、京都大学を中心に設立された、一般社団法人 健康・医療・教育情報評価推進機構が、国などの支援を受けて健診などの情報をデータ化し、分析することで、健康・医療政策にいかす事業を展開されており、この度、本市においても、県内他市町村に先駆けて参加することといたしております。

本市といたしましたしは、まずは学校保健の健診情報をデータ化し、将来的には、同機構から提供される分析結果をもとに、今後の健康教育や疾病予防等の施策に活用してまいり所存でございます。

次に、経済部関係でございます。去る十一月十一日、十二日の両日、ふるさと歴史の広場において、第六十八回ひとよし産業祭が開催されました。本年も、両日共に天候に恵まれ、市内外から多くのお客様に御来場いただき、実行委員会の皆様をはじめ御協力いただきました全ての市民の皆様にご心からお礼を申し上げます。熊本地震から一年が過ぎ、元氣な人吉を発信するため、市民の皆様による様々な芸能の披露のほか、食や物産コーナーにおいても、地元食材を使った食品、人吉球磨の物産や土産物などの販売を行っていただき、大いに盛り上がりを見せたところでございます。

また、本市の友好都市でもございます静岡県牧之原市からは、牧之原市商工会会長 本杉芳郎様をはじめ同商工会女性部、牧之原市職員の方々にもお越しいただき、釜揚げしらすをはじめとする海産物などの販売により、物心両面で本市との交流に努めていただいたところでございます。この場をお借りしまして、厚くお礼申し上げます。今後も、両市の更なる交流を進展させてまいりたいと存じます。

商工関係でございますが、起業創業・中小企業支援センター長の募集につきましては、募集期間を十月四日から十一月二十日までとし、転職ウェブサイトの活用や日本経済新聞への広告掲載、さらに、東京都内にて募集セミナーを開催するなど、多くの方々を対象に、募集情報や業務内容の周知を図り応募促進に取り組んでまいりました。その結果、東京都内をはじめ大都市圏在住者を中心に百二十七人の方々から応募いただいたところでございます。

今後は、十二月十四日に専門家を交えた書類選考にて五人程度を選定し、年明けの一月二十七日に本市で実施いたします面接審査を経て、センター長を決定することといたしております。

国民宿舍利活用関係でございますが、国民宿舍くまがわ荘につきましては、「まち・ひと・しごと」における総合交流施設として整備していく方針でございます。一階部分をコミュニティゾーン、二階部分をITビジネスゾーンと位置付け、平成三十年七月には、第一期の整備として、(仮称)旅カフェエントランスセンター、起業創業・中小企業支援センター及び温泉を活用した交流施設の開設を計画しているところでございます。将来はこれらに加えて、情報発信スペースや貸会議室として利用できる多目的ルーム、個人事業者や小

規模法人が施設・設備を共用し、自由にコミュニケーションを図ることができるとともに、ＩＴ企業等のサテライトオフィスの誘致を進めてまいります。

また、内設する（仮称）旅カフェエントランスセンターの整備につきましては、現在、一階玄関からフロント周辺、ホール、球磨川を望むロビーなどを改修エリアとして、事業着手に向け、準備を進めており、今回追加したスロープ設置及びテラス改修と併せ、平成二十九年度内の完成を目指しております。同施設がリニューアルされる仮称「まち・ひと・しごと」総合交流施設の金看板として、さらには、人吉球磨各地に観光客を送り出すガイドセンターとしての役割を最大限担ってほしいと期待しております。

くま川下り株式会社との事業再生関係でございますが、同社と経営コンサルティング会社との間で、新たな事業再生計画の策定に向けた契約が締結され、存続に向けた実現性の高い抜本的な改革のための計画とするため、事業分析や財務分析の実施がなされております。

その過程に併せて、同社の経営実態、経営難に陥った原因を具体的に調査するとともに、課題の掘り起こしや課題の共有のために、船頭さんをはじめ社員一人一人とのヒアリングを鋭意進められております。さらには、幅広く市民の皆様にも「くま川下り」という人吉球磨地域の大事な観光資源を改めて見つめ直し、理解を深めていただく場として、去る十月十五日に東西コミュニティセンターにおいて、住民参加型の意見交換会が開催され、危機的な経営難に陥った原因や課題を住民ならではの目線で語り合い、再生に向けて前向きな議論が交わされたところでございます。

筆頭株主である本市としましては、引き続き、同社の取締役会、メインバンクである株式会社肥後銀行と共に、関係各位と連携を取りながら、業務改善やサービス向上の具体的な方策なども踏まえた新たな事業再生計画の策定と同社の存続に向けて、出来る限りの支援を行ってまいりたいと存じます。

スマート林業関係でございますが、市内全域の民有林約一万ヘクタールを対象に航空レーザー計測と解析を行い、森林資源のデータを得ることができました。そのデータをもとに、生産工程に係る事業所五社は、人吉地域の木材安定供給に向けた検証試験に関する協定を締結し、本市と共に林業事業者に対し、木材加工事業者等を介して、建築等木材利用者のニーズをつなげることで、伐採から販路まで連携する仕組みづくりに取り組んでおります。今後は、新しいビジネスモデルを確立すべく、従来の生産工程などと比較し、スマート林業の生産性について官民一体となって検討してまいります。

また、若年層の林業に対する認知度の向上を図り、将来、林業を職業の選択肢としてもらえるように、人吉球磨地域の小・中学校、高校、専門学校の児童・生徒を対象に、林業教室を実施し、本年は、座学やチェンソーを使つてのデモンストレーションに加え、シイタケの植菌体験も取り入れ、より一層林業へ興味を持っていただけるものと存じます。

次に、建設部関係でございます。スマートインターチェンジ整備事業の進捗状況につきましては、西日本高速道路株式会社を担当します本体工事は、ＪＲ九州の肥薩線をまたぐ橋りょうの橋台が完成し、橋りょうの上部工に着手されたところでございます。

また、本市が担当する国道二一九号本線改築工事に伴う仮設道路改良工事につきまして、関係機関との協議による発注の遅れはあったものの、去る十月十八日に着手し、計画どおり進捗しているところでございます。

なお、仮設道路への道路切り替えの際など工事内容によっては、夜間の工事、片側交互通行などを実施いたします。周辺にお住まいの方々をはじめ当該道路を利用される皆様には大変御迷惑、御不便をおかけしますが、安全を第一に工事を進めてまいりますので、御理解と御協力をいただきますようお願い申し上げます。

最後に、教育部関係でございます。まず、学校教育関係でございますが、平成二十九年四月十八日に実施されました「全国学力・学習状況調査」の市内小・中学校全体の調査結果及び考察につきましては、今月二十日に、本市ホームページ上において公表いたします。

本調査は、児童・生徒の学力と学習状況を把握し、指導方法や学習状況の改善に役立てることを目的としておりまして、国語と算数又は数学の知識や活用に関して調査する「教科に関する調査」と学習の意欲や環境などを調査する「質問紙調査」を小学校六年生と中学校三年生を対象に実施されたところでございます。本市では、本調査の結果と考察を公表することにより、保護者、市民の皆様に対する説明責任を果たすとともに、学校、保護者、地域が一体となって学力の向上や学習環境の改善に取り組んでまいりたいと存じます。

全国的に子供たちのいじめやそれを原因とする自殺が深刻な社会問題となつている厳しい現状を踏まえ、「命の大切さ」をどのように捉え、どのように子供たちに伝えていくかは喫緊の課題でもあると認識しているところでございます。そこで、市内の各中学校における教育活動での取組と併せて、命を大切にすることを育む「命の授業」を市内の中学生を一室に会して、来る十二月二十日にカルチャー・パレスにおいて開催することとしております。

講師にテレビや各地の高校、中学校、そして少年院などで啓発活動を行っておられるゴルゴ松本氏をお招きすることで、多感な思春期の子供たちの感性に訴えかける講演会となり、一人でも多くの子供たちが命の大切さを深く感じ取ってくれることを期待しているところでございます。

「子ども議会」につきましては、年明けの一月十九日に市議会本会議場において、本市の未来を担う小学生を対象に「わたしたちがつくる人吉市の未来」をテーマとして「子ども議会」の開催を計画しているところでございます。小学生児童による「子ども議会」は、十七年ぶりの開催でございます。議会の模擬体験を通して、市民生活と行政との関わり、本市が直面する様々な課題について考えるとともに、自らの言葉で質問を行うことにより、議会制民主主義への理解を深めながら地方自治の仕組みについて学習することを目的としており、市内全ての小学校から選出された六年生の子ども議員二十人が、「まちづくり」をはじめとした鋭い質問や活発な意見をいただけるものと大いに期待しているところでございます。

社会教育関係でございますが、社会人向けのアカデミックな生涯学習講座としてお馴染みとなりました「ひとよし花まる学園大学」を、去る十月十四日に開講いたしました。本講座は本年で六年目となりますが、熊本学園大学教授の方々をはじめ人吉球磨地域の歴史

や文化に詳しい方々に講師を務めていただき、毎回好評を博しているところでございます。教養講座では、七十五人の受講生が熱心に耳を傾けられたところでございます。今後も、市民の皆様の学習意欲に応え、質の高い内容で知識と教養を深めていただくことで、地域の活力と活性化につながるよう努めてまいりたいと存じております。

スポーツ関係でございますが、第七十二回熊本県民体育祭人吉球磨大会におきましては、台風十八号の接近に伴いまして、日程を変更し、九月十六日のみの開催となりました。台風による様々な影響や選手の怪我など安全への配慮からやむを得ず中止となった競技もございましたが、本大会の運営に携わる多くの皆様の御尽力により、大きな混乱もなく、無事に終了できましたことに心から感謝申し上げます。

競技を実施することができました各会場の白熱した試合と熱気あふれる応援の様子からは、熊本地震による被害からの復旧・復興を目指す「熊本の元氣」を感じ取ることができ、スポーツを通じた交流や地域づくりの可能性を再認識したところでございます。

地域住民の皆様方も、地元開催ということでも多くの方々にお越しいただき、県民のスポーツの祭典を身近で御堪能いただいたことと存じます。本市の選手の活躍は、皆様御承知のことと存じますが、クレール射撃とボウリングの優勝をはじめ多くの競技で好成績をあげられ、前回大会から躍進して総合五位という素晴らしい成績を収められました。

本大会の成功に向けて陰になり日向になり準備、運営に並々ならぬ御尽力を賜りました大会実行委員会の皆様をはじめ関係各位の御協力に心から厚くお礼申し上げます。

小学校の運動部活動の社会体育移行でございますが、本年度は活動方針の決定と組織づくり、平成三十年度は引継ぎ及び移行期間と位置付けまして、平成三十一年度からの完全移行に向けて、現在、校区ごとに検討委員会を開催し、協議を重ねているところでございます。地域の将来を担う子供たちが、スポーツに親しみ、また楽しみながら心身共に健やかに成長するためには、保護者、地域、学校、行政が協働して取り組む必要がございます。

子供を地域で育てるこの取組を通して、地域の活性化や地域コミュニティの強化にもつながるものと考えておりますので、今後とも、市民の皆様の積極的な御参画と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

文化振興事業関係でございますが、芸術の秋を彩る第六十四回人吉球磨総合美展を、十月二十一日から二十六日まで、人吉スポーツパレスにおいて開催いたしました。絵画、デザイン、彫刻、書道、工芸、写真の各部門に、人吉球磨地域以外の方々も含めて合計三百二十八点の出品がございました。審査により選ばれた入選作を中心に、招待作家、審査員、地元高校生の各作品を一堂に、総数二百七十八点の展示を行い、期間中は一千七百七十六人の方々に御来場いただいたところございます。

出品いただいた方の年代は、十代の高校生から九十代までと幅広く、総合美展は正に世代を越えた総合芸術の場となっております。人吉美術協会の皆様をはじめ関係者の皆様に深くお礼申し上げます。

一方、十一月四日、五日の二日間、クラフトパーク石野公園とカルチャーパレスにおきまして、人吉文化協会主催によります第四十四回人吉文化祭が開催されたところでござい

ます。二会場に分かれての開催ではございましたが、好天に恵まれ、御来場の皆様には心ゆくまで、芸術の秋を堪能していただけたものと存じます。今後も、市民の文化力の向上とともに、後進の御指導等にお力添えを賜りたく、お願い申し上げます。

第七十一回犬童球溪顕彰音楽祭でございますが、去る十一月十日にカルチャーパレス敷地内の犬童球溪先生の銅像前で碑前祭を行い、その後大ホールにおいて、学校発表会を開催したところでございます。学校発表会では、同月三日の個人コンクールで「球溪賞」を受賞した地元の小学生や高校生の演奏をはじめ人吉球磨地域の小・中学校、高校三十六校から一千三百人を超える児童・生徒がステージに立ち、素晴らしい演奏や合唱を披露していただいたところでございます。また、音楽祭関連事業のフィナーレとして同月二十三日に開催しました音楽のひろばでは、小学生から八十代までの六十二人の皆さんが、音楽のひろばのための特設合唱団として、八月からの練習の成果を御披露いただき、フィナーレの全員合唱では、歌を通してひとつになる喜びを会場全体で感じたところでございます。これからも市民の皆様や関係の方々とは一体となって音楽祭を盛り上げ、犬童球溪先生の偉功の継承に努めてまいりる所存でございます。

続きまして、平成三十年度予算編成に向け、その方針を定めましたので御報告申し上げます。

平成三十年度予算編成に際し国は、「経済財政運営と改革の基本方針二〇一七」を踏まえ、施策の優先順位を洗い直し、無駄を徹底的に排除しつつ、本格的な歳出改革に取り組むこととしております。

また、熊本県は、熊本地震の復旧・復興には長い時間と確かな財源が必要であり、本年五月に公表した「中期的な財政収支の試算」においては、平成三十年度以降五年間、各年度二十九億円から九十四億円の財源不足が生じると試算、復旧・復興を着実に推進していくためにも、真に必要な事業の選択、及び効率的な予算執行に取り組んでいかなければならないとしております。

一方で、本市においては、最大の課題であった新市庁舎の建設に際し、国から有利な財政措置が講じられることとなったものの、今後、起債償還の増加は避けられない状況でもあり、可能な限り財政負担の軽減を図っていかねば、教育、福祉、子育てなどの市民生活を支える基礎的な行政サービスを確保できなくなることも危惧されるところです。今後、「第五次人吉市総合計画後期計画」、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に沿って暮らしやすい地域の創造、子供を産み育てやすい環境の整備、起業創業の支援、交流の活性化など、人口減少に歯止めをかけ、ひいては移住定住促進にもつながる施策を一つ一つ着実に推進していくことが重要であると存じます。

以上のことから、平成三十年度予算編成にあたっては、国の予算編成や支援の動向を見極めつつ、最大の課題である新市庁舎建設をはじめ市民や地域経済が求めるニーズ等の状況変化にも的確に対応するとともに、課題の整理や将来展望に努め、市民一人一人の幸福向上や市全体の躍進を目指して、きめ細かく、そして時には大胆な地域づくりを図れるよう進めてまいりる所存でございます。

城山三郎氏の名著「男子の本懐」の中で、激動の昭和初期の大蔵大臣井上準之助が不景気にある我が国の経済の先行きを道に例えて話す下りがあります。「道を定めれば、多少の坂があつて、炎天下で息が切れることがあつても、迂回することなく、その坂を超えるところが結局、目的への一番の近道である。」というもので本道を行く重要性を説いております。本市の目指すものについて、時事の細事に気を配りながらも、本筋、正道を歩んでまいりたいと存じております。

最後に、ここ数年において相次ぎました「事務処理ミス」につきましても、しっかりとした検証を行い、実務研修等を通じて再発防止に努めるとともに効率・効果的な事務処理にも努めてまいりたいと存じます。

以上、平成三十年代当初予算編成方針について述べさせていただきましたが、議員各位をはじめ市民の皆様におかれましても、この趣旨を御理解いただき、今後の改革・改善に特段の御協力、御協賛を賜りますようお願い申し上げます。